



出会い・ふれあい・語り合い～みらいよりあい

5小学校区の交流会 ～ 新たなスタートへ！

令和6年1月20日土曜日の午後、アデリア総合体育文化センターで、市内5つの小学校区合同の「未来寄合全体フォーラム」を開催しました。参加者は、市民や事務局スタッフを含めて84名でした。

まず久保田市長からあいさつのあと、市の担当者よりこれまでの5地区×3回の未来寄合をふりかえり「そこから見てきたもの」の紹介がありました。

続いて、岡崎まち育てセンター・りたの天野裕さんから、「耳寄り講演会」と題し、岡崎の中心市街地で取り組まれているまちづくりについてお話を伺いました。休憩を挟んで後半は、11グループに分かれて意見交換をした後、全体で発表・共有。最後に、天野さんから講評をいただきました。

未来寄合 全体フォーラム ～ 5つの小学校区一緒に！

1 あいさつ

これまで、小学校区ごとに地域の強みと弱みを出し合い、自分たちに何ができるだろうという話を続けていただきました。解決策は決まった答えがあるわけではありませんし、他のまちでうまくいったことが岩倉市でもうまくいくとも限りません。大切なことは、行政からこうしようとして押し付けるのではなく、地域のみなさんが意見を出し合って納得して地域づくりをしていくこと。これまで2年やってきましたが、これからが新たなスタートと捉えています！



久保田市長



2 これまでのふりかえり

未来寄合で情報共有することで、各地域共通の課題や、地域独自の課題が見えてきました。これらの解決のためには「自助・互助・公助」の3つの視点どれ1つ欠けてもいけません。幸せに暮らし続けることができる地域にするため、未来を見据えた新しい地域のありかたを検討することも必要です。みなさんと行政と一緒に取り組むため、対話を続けていくことが大切だと思っています。



協働安全課 植手さん



3 耳寄り講演会

「まちで遊び まちに学び まちと暮らす -まちを自分ごとにする『新しい自治』のかたち-」

NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた 事業企画マネージャー
天野 裕^{ゆたか}さん



今日お話しすることは、最初から狙ってやったものではなく、後からふりかえて「これがうまくいったかな」ということをお話しするものです。まちづくりは「特効薬」も「万能薬」もなく、「小さなトライ&エラー」を繰り返して「無理なく続けられる方法」を見つけることが大事だと思っています。

● QURUWA の新しい日常

岡崎では、中心市街地にある主要拠点をつなぐ回遊動線を「QURUWA」と名付け「QURUWA 戦略」というまちづくりを進めています。この「QURUWA」は、東岡崎駅、籠田公園、図書館交流プラザ、岡崎公園と乙川河川緑地などを結ぶ回遊動線がQの字に見え、岡崎城の総曲輪（外堀）とも重なることに由来しています。

QURUWA では、ほぼ毎日どこかで何かが行われています。毎月第 1・3 土曜は河川敷で新鮮野菜の朝市を開催。そこでは絵本のリサイクルをする団体が絵本を売っていたり、お弁当を持って行って川を眺めながら朝ごはんを食べたり、子どもたちが川岸で砂遊びをしたりしています。

第 2 土曜日は乙川の清掃活動「リバー・クリーン」をしています。最初は関係者数人でやっていたのが今は親子連れがたくさん。自転車やテレビなどの大物が出ると子どもたちが大喜びし、参加してない人からも Messenger で「大物があったよ」と情報交換するようになったり。義務的だったのがだんだん楽しくやるようになり、雨でも苦じゃなく



なって。ある時 SUP をする方がウェットスーツを着て大物を取り出したら、子どもたちが「かっこいい！」となり、私も胴長を買って参加。そうしたら、あるお子さんが一昨年のクリスマス、サンタさんに胴長を頼んで翌月それを着て嬉しそうに参加していました（笑）

第 3 日曜はサンデーヨガ。寄付制にして、いただいたお金はリバー・クリーンに使ったり、第 4 土曜の桜城橋ふきに使う雑巾を買ったりしています。この橋ふきは、新しくできた木の橋の床の雑巾がけ。子どもが雑巾で絵を書いているから「ちゃんとやりなよ！」と言うと「お父さんもしゃべっているだけじゃん」と言われたりして。雑巾がけは、みんなが楽しく過ごさきっかけになっています。

橋ふきの後には、いろいろな人が講師役になる橋上教室をすることも。ここでも子どもたちが遊んでいたり、ワンちゃんも一緒にいられたりオープンな場になっている。季節のいい時期は夜に河川敷でナイトマーケットも。この他にも月に 1 回満月の夜に月待会をしたり、川の上流部の森の間伐材を使って河川敷でキャンプをしたり、ヒメボタルが見えると聞いてみんなで見に行ったり…こういったことがほぼ毎日、定期的に行われているので気軽に参加することができます。

● 7 町・広域連合会

こうしたことができるようになったのはここ数年。なぜこのような動きが生まれたか？

QURUWA では、乙川と籠田公園をつなぐ緑道や公園の再整備、橋の新設などを 10 年ぐらい取り組み、公園と緑道に面した町内の住民が検討会議に参加していました。そして 2019 年の公園完成 1 年前に公園の活用と管理を考えるワークショップで「かつて籠田公園で行われていた盆踊りを復活させたい」という話が出て、7 町が主体

となって実行委員会をつくって実現したんです。これが、地域のみなさんにすごく喜ばれました。大きな反響があって、うちも混ぜてくれないかと周辺の町内会も加わって…こうして 1 つの町ではできなかったことが力を合わせたら成功したので、「7 町・広域連合会」という形で毎月集まることになりました。最初は 10~20 人だったのが、だんだん、ここに行くと話が早いと行政やイベントの告知をしたい人、お店を開く人などが集まってきて、いろんな情報が早く手に入ると、聞きに来る人も増えて、毎回 60~70 人集まるように。開催頻度を見直し、今では隔月開催になりましたが、定期的に集まる場があることでちょっとした交流もできています。昨年は「どうする家康」のえびすくい音頭も作られて、橋の上など 3 カ所で踊って盛り上がりました。

● 次世代の会

地域活動の担い手不足の中、地域活動を維持するために、これからは現役世代の参加が必須になります。でも現役世代は共働きが増え、仕事、家庭、趣味やつきあいで忙しい。仕事の関係する、やりがいがあったり、家族ぐるみで楽しく参加できないと、地域活動の優先順位は上がらない。そこで、情報交換の場である「7 町・広域連合会」とは別に、具体的なアクションを起こす会議体として、30~40 代の地域内外の人、事業者、行政職員などを中心にした「次世代の会」を立ち上げました。

最初「空き家・空き店舗活用のマッチング」、「高齢者の困りごと支援」、「イベント企画・支援による交流促進」といった 3 つの分科会が立ち上がりました。すると「このエリアで SDGs を普及させたい」、「景観のまちづくりをしたい」、「子育てしやすいまちにした

い」と次から次に分科会ができ、去年1年で16くらいのプロジェクトが出てきました。

どうしてこのように新たな担い手や活動が次々生まれたのか。エリア外の人やビジネスとしての関わりでもいいと広く呼び掛けてやっていること。また、やりがいや楽しさを尊重していること。「7 町・広域連合会」や公園で開催している飲み会など、定期的に情報交換し交流できる場があること。信頼関係を築いて、上の世代が下の世代に委ねて応援する、上の世代の信用と下の世代の実行力を組み合わせていることなどがうまくいっている理由かなと思っています。

岡崎はおもしろい人がたくさんいていいねと言われることがあります。他の地域とそれほど変わらないと思っています。では何が違うか。もともといろんな人がいてつながっているんですが、ある所につながると話が全部通っていく。こんなことやりたいと言うと、誰々に聞くといいとか、あの人に話を通してあげるよとか、話が早い。それが今の岡崎の状況。線をたくさんつなげばつなぐほど、やれることが増えていくんじゃないかと思っています。



● 松應寺横丁の空き家活用

中心市街地の北の外れにある松應寺横丁は、江戸時代、由緒ある松應寺の門前町として栄え、空襲で焼失したあと境内に闇市ができて商店街になった場所。老朽化の一方でレトロな魅力がある。そこで、地域の方に路地と空き家を活かした取り組みを提案したところ「できるわけない」と言われたのですが、お願いして町内会の役員やお寺の住職さん、お祭りの役員、住民など地元の人を集めていただき、「松應寺横丁まちづくり協議会」を立ち上げました。そして、ニーズ調査から始めたところ、多くの人々が、空き家・空き店舗の増加と少子高齢化を課題と感じていることがわかりました。

まずはできそうなことからということで、アンケートで声が多かった縁日をしてみたら1,000人くらいの人々が来て、半年後の2回目は1,500人くらいに。これはやめられないなど、それから年に2回開催していくことになりました。

そうすると、日常的に人が来るようにしたいと地元の方から声が上がってきて、空き家を活用した地域の活動拠点をつくることにしました。17軒の空き家は、最初は所有者がわからなかったり、貸してくれなかったりだったのですが、探していくうちに貸してくれるところが見つかり、そこを改修して軽食屋とレンタルBOX型の雑貨屋にしました。この1,000円×24ブースのレンタルBOXは縁日で手づくりの物を販売したママさんやシニアの方ですぐに埋まりました。また軽食屋を切り盛りしている方々は、接客が天才的で、来た人とたちまち友達になる。10周年を迎えた今も賑わっています。

やってみてわかったのは、出店者は自分の商品を売りたいというつもりで来ているけれど、毎月商品を出したりおしゃべりをしたりするうちに、何かあったらこのまちのために一肌脱ぐよ、という担い手になっていった。関係ができれば、頼めば何かしてくれる。必ずしも最初に目的が一致していなくても、結果的に成果が得られることがわかりました。

1軒目の空き家活用モデルができたので、2軒目3軒目とスムーズにできるようになり、レンタルBOXで出店していた人も自分の店を持ちたいとDIYで空き家を改修したりして…今では空き家17軒のうち15軒が使われるようになって、今時、新しく商店街組合をつくったりして地域を支えています。

● 高齢者の支援

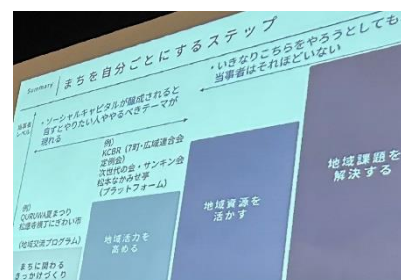
こうして空き家が埋まっていったようやく、課題であった高齢化対策について、町内会長と老人会会長、民生委員、地域包括支援センターと一緒に考えることにしました。そしてまずは何に困っているかを調査したところ、特に買物に困っていることがわかりました。するとこの会議のメンバーが週2回

(その後週1回に)16時から17時の1時間だけ営業する会員制の弁当屋をつくりました。みんな15時50分くらいに来て路地で井戸端会議が始まる。外出して交流する機会になり、安否確認にもなる。来ないと民生委員が電話したり見に行ってもらったりすると、大体は「忘れとったわ」となるんですが、それが続くと認知症の心配をしたりと、高齢者を見守る弁当屋となっています。

● 自治は創造的で刺激的

千年単位で見ても初めて人口が減る局面に来ています。だから、どこにも解決策、お手本がない。医療費や介護費が増え、CO₂削減、気候変動など課題山積。これまでと同じことをしてもうまくいきません。

誰がやっても変わらない品質を保つことを日本人は得意としてきましたが、どこも人手が足りない中、誰がやっても変わらないことはできなくなっていき、「誰でもいいからやってくれる?」「前やっていた通りにやってくれらいいから」ではモチベーションも上がらない。これまでのやり方を変えていく時が来ています。やりたいこと、できることをやってみようとした結果、いろんなことができました。いろんな人がいろんなテーマで、が大事。これまでのやり方でできなくなってきたならば、ゼロベースで何が大事か、何ならできかを考えてやっていく視点も大事になります。これからは自治がクリエイティブ、創造的になっていくと思います。誰も体験したことがない、誰でも解決できない課題を、持ちうる全ての資源、人やネットワーク、アイデアを総動員してやっていくしかない。だから自ずと「協働」でみんなが話しながら解決していくことが前提となっていきます。そんな自治はすごく大変だけど、すごくやりがいもあるし、楽しさがあり喜びがあるんじゃないかなと思っています。



4 おしゃべりカフェ（交流会）

11グループに分かれて、「講演会で印象に残ったこと」や、「持続可能な学区へのはじめの一步」について意見交換をし、グループの「イチオシ」をボードに書いて全体で発表・共有しました。



持続可能な学区へ～
エレガントでミニマムな
「はじめの一步」は？

人と経験の
つながりを大切にする

地域の達人をつくる

五条川を中心とした
桜に頼らない
1年を通じたまちづくり

若い人に知ってもらう
情報発信！

定期的に会える交流の場
（プラットフォーム）を作る

途切れない年代交流

今までの行事に「創造的」
「刺激的」な工夫をする

ビジョンを持つ（長期）

空き家を利用して
賑わいを創る



「ひとことアンケート」より
感想、気づいたこと・発見したことなど

- 活気溢れたまちづくりの例の数々にとても刺激を受けました！
- 岩倉でも可能な事例が多かった！
- 創造的なことがこれから必要。課題解決から入ったらいいかん！は、ある意味夢につながりました。やる気になりました
- 具体的な活動を一步步ずつスタートしたい
- 若い人たちの発想の豊かさ
- 若い人の参加もあり、これからのつながり、発展を感じた
- 立場も年代も違う人たちと話すことで、新しいものが生まれることを実感しました！ほか

講演会で印象に残ったことは？

楽しくやってみよう♪

今までのやり方からの転換

これからの自治は
クリエイティブだ

必ずしも
目的と一致しなくても OK！

まちづくりの仕掛け、
体制づくり

無理をしない！

横のつながりをつくる！

やりたいこと、必要な
ことから先にやっていく。
できることから！！

顔の見える
関係人口を増やす

地域以外の方も
取り込んで
課題解決につなげる！



岩倉市役所 協働安全課（須藤・植手）

TEL (0587) 38-5803

FAX (0587) 66-6380

✉ kyoudou@city.iwakura.lg.jp